

青森県立高等学校教育改革推進計画

第2期実施計画

[令和5年度～令和9年度]

令和3年 月 日

青森県教育委員会

目 次

第1 第2期実施計画策定の経緯	1
第2 学校・学科の充実	
1 全ての高校に共通して求められる教育環境	3
2 全日制課程	
（1）普通科等の充実	5
（2）職業教育を主とする専門学科の充実	8
（3）総合学科の充実	13
（4）多様な教育制度の充実	14
3 定時制課程・通信制課程	15
第3 学校規模・配置	
1 全日制課程	
（1）中学校卒業生数の推移（見込み）	16
（2）募集学級数の推移（見込み）	16
（3）地区ごとの学校規模・配置計画	17
（4）地域校への対応	25
（5）統合に当たっての留意事項	26
2 定時制課程・通信制課程	
（1）定時制課程	27
（2）通信制課程	27
第4 魅力ある高校づくり	
1 学校・家庭・地域等との連携の推進	28
2 教育活動の充実に向けた取組	30
第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進	
1 青森県立高等学校教育改革推進計画の進捗管理	32
2 次期実施計画の策定	32
附属資料	33

第1 第2期実施計画策定の経緯

(青森県立高等学校将来構想検討会議※における検討)

- 県教育委員会では、社会の変化や生徒数の急激な減少に対応し、生徒の夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高校の在り方について「青森県立高等学校将来構想検討会議」へ諮問し、同会議における約1年半にわたる審議を経て、平成28年1月25日に答申を受けました。

(基本方針の策定)

- この答申を踏まえ、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境づくりに向け、平成30年度以降のおおむね10年間を見据えた県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す「基本方針」と具体的な学科改編や学校規模・配置等を示す「実施計画」（第1期実施計画：平成30年度から5年間、第2期実施計画：令和5年度から5年間）により構成する「青森県立高等学校教育改革推進計画」を策定することとし、平成28年8月3日に基本方針を策定しました。

(第1期実施計画の策定・推進)

- 第1期実施計画の策定に当たっては、平成28年9月から平成29年1月まで、県内6地区で各3回の地区意見交換会を開催し、市町村教育委員会教育長、小・中学校長等の学校教育関係者、PTA関係者、産業界関係者等から各地域の実情に即した幅広い御意見を伺った上で、計画案を公表しました。
計画案の公表後は、県民の皆様にご直接御説明した上で御意見を伺う地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施等を通して多くの御意見等をいただきながら検討を重ね、平成29年7月20日に第1期実施計画を策定しました。
- 平成30年度からは、主体的・対話的で深い学び※の実践や学習指導におけるICTの活用等による各校の教育環境の充実を図るとともに、重点校※・拠点校※と各校との連携、学科改編を含めた各学科の充実、学校規模の標準※を踏まえた計画的な学校配置に取り組むなど、第1期実施計画の着実な推進に努めてきたところです。

(高校教育の充実に向けた検証)

- 県立高校教育改革の推進に当たり、生徒の夢や志の実現に向けた高校教育の充実に資するよう、令和元年度に高等学校教育に関する意識調査※を実施しました。
また、第2期実施計画の策定に向け、第1期実施計画の取組状況を検証するため、県内の有識者で構成する「青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針検証会議」を設置し、令和2年5月26日に報告書を提出いただきました。

※青森県立高等学校将来構想検討会議：平成30年度以降の県立高校の在り方について検討するため、県教育委員会が平成26年度～27年度に設置した有識者会議です。

※主体的・対話的で深い学び：附属資料1（33ページ）参照

※重点校：5ページ参照

※拠点校：8ページ参照

※学校規模の標準：基本となる学校規模 … 1学年当たり4学級以上
重点校の学校規模 … 1学年当たり6学級以上
拠点校の学校規模 … 一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

- この報告書では、重点校・拠点校・地域校※の配置や学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置等、基本的にこれまでの取組を継続するよう提言いただいた一方で、「地域校について、中学生の進路選択に不安を与えないような対応を検討すること。」「より充実した教育環境の実現を図るため、全国からの生徒募集の導入を検討すること。」等、基本方針の見直しに関する提言もいただきました。

（基本方針の改定）

- 基本方針検証会議の報告書等を踏まえながら、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境について改めて検討し、第2期実施計画の策定・推進に向けた基本的な考え方を示すものとして、「地域校の募集停止等の時期」や「全国からの生徒募集の導入に係る検討」等を新たに加えた基本方針（改定案）を公表しました。
その後、地区懇談会やパブリック・コメントによる御意見等を踏まえながら更に検討を重ね、令和2年8月5日に基本方針を改定しました。

（第2期実施計画の策定・推進）

- 第2期実施計画の策定に当たり、令和2年9月から令和3年2月まで、第1期実施計画策定時と同様に、県内6地区で各3回の地区意見交換会を開催しました。
- 地区意見交換会では、「通学環境への配慮や地域活性化の観点から高校を存続するべき。」との意見や、「教育水準の維持のためにも高校の統合は致し方ない。」との意見等がありました。このほか、ICTを活用した教育活動の充実、地域との協働による魅力ある高校づくり、高校における特別支援教育の充実、全国からの生徒募集の導入等、幅広い御意見をいただきました。
- これらの地区意見交換会における意見等を参考としながら、改定後の基本方針や国の制度改正※等を踏まえ、令和3年7月7日に第2期実施計画（案）を公表しました。
- 案の公表後は、県内6地区延べ11回の地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施等により、計画策定の進め方に関する意見、統合や学級減の対象校に関する意見、全国からの生徒募集の導入に関する意見等、多くの御意見をいただきました。その一つ一つを参考としながら検討を重ね、このたび、成案として策定したものです。
- 第2期実施計画は、第1期実施計画に引き続き、「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」の観点に意を用いて取り組むとともに、生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための魅力ある高校づくりを更に推進するものです。
- 今後は、計画に基づく各取組を着実に推進し、未来を担う子どもたちが変化の激しい時代にあっても、夢や志の実現に向けて成長することができるよう取り組みます。

※高等学校教育に関する意識調査：本県高校教育の在り方を検討するための資料を得ることを目的として、中学生や高校生、保護者、教員等を対象に、高校を選ぶ際に重視する点等について調査したものです。

※地域校：25ページ参照

※国の制度改正：附属資料2（34ページ）参照

Society5.0※時代が到来しつつあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響等により、将来を見通すことが極めて困難な時代を迎えており、国においても、新時代に対応した高校教育改革を進めているところです。このような中、未来を担う子どもたちには、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え協働的に議論することを通して、課題を解決していく力が求められています。

このことから、全ての高校において、生徒一人一人に対するきめ細かな指導の下、創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるとともに、相互に連携しながら、地域の期待に応え、本県の未来を担う人財※を育成できるよう、次のとおり取り組みます。

1 全ての高校に共通して求められる教育環境

カリキュラム・マネジメント※の適切な実施

- 各校の特色ある教育活動の推進に資するよう、県教育委員会において、地域の実情を踏まえながら、各校に求められる役割や目指すべき学校像等をスクール・ミッションとして明確化します。
- スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針をスクール・ポリシーとして策定します。
- スクール・ポリシー等に基づき、教育課程を編成・実施・評価・改善するとともに、地域の人的・物的資源等を効果的に活用しながら、教科等横断的な視点で組織的かつ計画的に教育活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントを適切に実施します。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を育みます。
- 地域や社会全体の課題解決に主体的に取り組む人財の育成に向け、STEAM教育※の視点を取り入れながら、探究的な学びを重視した教育活動を展開します。
- 主体的・対話的で深い学びの実現等に向け、県総合学校教育センターによる研修や各校における校内研修等の充実を図ります。

※Society5.0：狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、人工知能（AI）、ロボット等の先端技術を産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく社会を指すものです。

※人財：「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表記しています。

社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の育成

- 小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、特別活動、総合的な探究の時間、各教科における学習等、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育に取り組みます。
- キャリア教育の推進に向け、生徒の特性や地域の実情等を考慮しながら、地域・企業等と連携したインターンシップや、大学等と連携したアカデミック・インターンシップ※等の充実を図ります。

※カリキュラム・マネジメント：附属資料2（34ページ）参照

※STEAM教育：各教科における学習を実社会の問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育であり、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材の養成を目指すものです。

※アカデミック・インターンシップ：研究者や大学等の卒業が前提となる資格を要する職業も含めた就業体験等を指します。例えば、大学や研究機関等の研究活動を先行的に体験する活動等が挙げられます。

2 全日制課程

(1) 普通科等の充実

各校の教育環境の充実

- 各校が連携しながら、大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、科学技術分野、スポーツ分野、国際分野、文化芸術分野等、様々な分野で活躍できる人財の育成に向け、地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした取組を推進します。

重点校と各校の連携による取組[※]

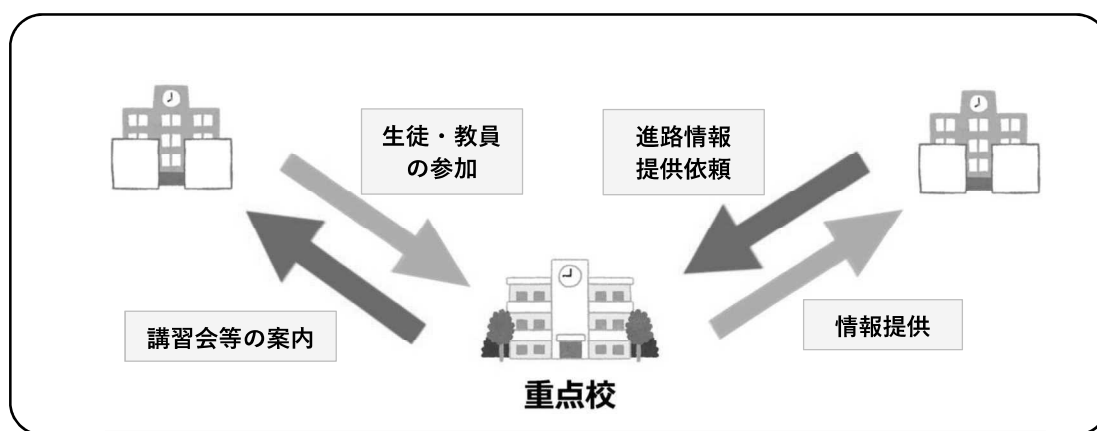
- 各校の生徒の意欲的な学習に資するよう、今後求められる人財の育成に向けた探究活動等の特色ある教育活動の中核的役割を担う重点校を配置し、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ります。

【重点校の配置】

東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

- 重点校が実施する、探究活動に係る研究会や大学教授によるセミナー、大学進学に向けた講習会等に各校の生徒が参加するとともに、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進め、各校の生徒が進路実現に向けた確かな学力を身に付けられるよう取り組みます。
- 重点校と各校の連携による取組について、計画・実行・検証・改善を通して更なる充実を図るとともに、積極的な周知に努めます。また、重点校と各校の円滑な連携に向け、必要な体制の整備等に取り組みます。

【重点校における連携イメージ】



※重点校と各校の連携による取組：附属資料3（35ページ）参照

各学科の充実

普通科：普通科を設置する高校

- 大学等への進学や就職等に向けた幅広い教育を提供しながら、これからの時代に求められる力を身に付けた、地域を支え社会に貢献する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。
- 国における普通科の特色化・魅力化に関する動向を踏まえ、現代社会を巡る複雑な課題や地域社会の課題等に対応するために必要な資質・能力の育成に向け、各校の実情に応じた探究活動を推進します。

理数科：五所川原高校

- 人工知能（AI）やビッグデータ※等の技術革新による社会の変化に対応できる科学的能力や科学的思考力を身に付けた、科学技術人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9
五所川原	理 数	変更なし

スポーツ科学科：青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校

- 第80回国民スポーツ大会の開催（令和8年度予定）を好機として捉え、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できる力を身に付けた、スポーツの推進及び発展に寄与する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9
青森北	スポーツ科学	変更なし	八戸西	スポーツ科学	変更なし
弘前実業	スポーツ科学	変更なし			

※ビッグデータ：従来のシステムでは記録・保管が難しいほど巨大なデータ群であり、これらを解析し活用することで、交通渋滞・医療の充実・犯罪抑止といった社会的課題の解決、生産性の向上、サービス革新等につながる事が期待されています。

外国語科：青森南高校

- 中学生のニーズ等を踏まえるとともに、社会の更なるグローバル化等に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成するため、これまで英語やロシア語の学習、国際理解教育等を推進してきた外国語科の学習内容を発展的に見直し、グローバル探究科に改編します。
- グローバル探究科では、グローバルに活躍するために必要な力を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロレア※の理念に基づき、語学力だけでなく、幅広い教養、課題を発見し解決する能力等を身に付けられる学習の充実を図るとともに、SDGsの実現等に着目した探究活動に国内外の学校等と協働しながら取り組むなど、特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9
青森南	外国語	▶ グローバル探究

表現科：八戸東高校

- 言語・身体・映像・舞台等の表現活動を通して、表現力を総合的に陶冶し、豊かな情操と創造性を身に付けた、多様性を尊重できる心豊かな社会の形成に寄与する人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9
八戸東	表現	▶ 変更なし

※国際バカロレア：国際バカロレア機構が実施する「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を教育理念とした国際的な教育プログラムであり、生徒に対し、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与えるものです。

(2) 職業教育を主とする専門学科の充実

各校の教育環境の充実

- 基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育むとともに、高度な知識・技能を身に付け、社会の発展に貢献できる人材の育成に向け、大学等との接続を視野に入れた取組や地域・企業等と連携・協力した取組を推進します。

拠点校と各校の連携による取組[※]

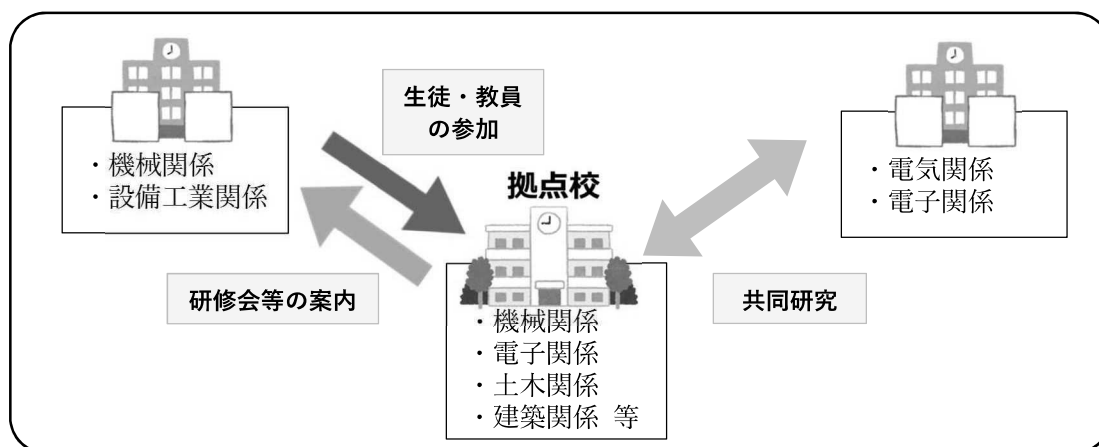
- 各校の生徒の意欲的な学習に資するよう、農業科、工業科及び商業科の高校において、各学科の学習の拠点としての役割を担う拠点校を配置し、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ります。

【拠点校の配置】

農業科	工業科	商業科
五所川原農林高校 三本木農業恵拓高校	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

- 拠点校が実施する、熟練技能者による技術講習会、県内企業による出前講座、外部講師による専門的な資格取得講習会等に各校の生徒が参加するとともに、各学科間の横断的な共同研究や学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進め、各校の生徒がより専門的な知識・技能を身に付けられるよう取り組みます。
- 拠点校と各校の連携による取組について、計画・実行・検証・改善を通して更なる充実を図るとともに、積極的な周知に努めます。また、拠点校と各校の円滑な連携に向け、必要な体制の整備等に取り組みます。

【拠点校における連携イメージ（工業科の例）】



※拠点校と各校の連携による取組：附属資料4（36ページ）参照

各学科の充実

農業科：五所川原農林高校、柏木農業高校、三本木農業恵拓高校、名久井農業高校

○ 環境保全型農業、農業の6次産業化、スマート農業※等、これからの農業に必要な資質・能力を身に付け、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、特色ある教育活動を推進するとともに、次のとおり学科改編します。

- 五所川原農林高校においては、森林科学科と環境土木科を統合して環境科学科に改編し、森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等に関する学習の充実を図ります。
- 柏木農業高校においては、生活科学科を生物生産科に統合し、農業生産や農業経営等に加え、地域資源の活用に関する学習の充実を図ります。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9
五所川原農林	生物生産	変更なし 環境科学 変更なし	三本木農業恵拓	植物科学	変更なし
	森林科学			動物科学	
	環境土木			環境工学	
	食品科学			食品科学	
柏木農業	生物生産	変更なし 生物生産 変更なし	名久井農業	生物生産	変更なし
	生活科学			環境システム	
	環境工学				
	食品科学				

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
生物生産	農業生産、農業経営、植物バイオテクノロジー等について学習。
植物科学	作物・野菜・草花生産、農業経営、植物バイオテクノロジー等について学習。
動物科学	家畜生産、畜産経営、愛玩動物等について学習。
環境科学	森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等について学習。
環境工学	農業機械、農業土木、環境保全、造園等について学習。
環境システム	施設園芸、生産設備、工業技術等について学習。
食品科学	食品の製造・成分分析・品質管理、食品流通等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

※スマート農業：ロボット技術や情報通信技術等を活用する農業であり、作業の自動化により人的コストを抑制したり、データ解析等を通して農作物の生育や病害虫の発生を予測したりするなど、高度な農業経営を行うものです。

※モノのインターネット化 (IoT)：自動車、家電、ロボット、施設等のあらゆるモノがインターネットにつながることを指し、様々な情報のやり取りをすることで新たな付加価値を生み出すことが期待されています。

工業科：青森工業高校、五所川原工科高校、弘前工業高校、十和田工業高校、むつ工業高校（下北地区統合校）、八戸工業高校

○ モノのインターネット化 (IoT) ※をはじめとする技術の高度化や、環境負荷の軽減、エネルギーの有効活用等、産業社会に求められる変化に対応できる資質・能力を身に付け、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、特色ある教育活動を推進するとともに、次のとおり学科改編します。

- むつ工業高校（下北地区統合校（23ページ参照））においては、電気科と設備・エネルギー科を統合して電気・エネルギー科に改編し、発電や送電、電気配線工事のほか、エネルギー等に関する学習の充実を図ります。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9	
青森工業	機 械	変更なし	十和田工業	機械・エネルギー	変更なし	
	電 気			電 気		
	電 子			電 子		
	情報技術			建 築		
	建 築		変更なし	むつ工業 (下北地区統合校 (P23 参照))	機 械	電気・エネルギー
	都市環境				電 気	
五所川原工科	機 械	変更なし	八戸工業	機 械	変更なし	
電子機械	電 気					
弘前工業	電 気	変更なし		電 子		
	機 械			土 木		
	電 子		建 築			
	情報技術		材料技術			
	土 木					
	建 築					

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
機 械	機械設計、切削加工、溶接、鋳造、組立技術等について学習。
機械・エネルギー	機械設計、機械工作のほか、燃料電池、エネルギー等について学習。
電子機械	機械設計、電子回路設計のほか、コンピュータ制御等について学習。
電 気	発電や送電、電気配線工事、発電機、電動機の仕組み等について学習。
電気・エネルギー	発電や送電、電気配線工事のほか、エネルギー等について学習。
電 子	電子回路設計、組込み技術、コンピュータ制御、情報通信等について学習。
情報技術	プログラミング、データ通信、マルチメディア、データベース等について学習。
建 築	建築物の構造計算、設計・製図、建築工事、法規等について学習。
土 木	測量、道路・鉄道・上下水道等の社会基盤整備、環境保全等について学習。
都市環境	測量、土木施工、都市環境、環境保全等について学習。
材料技術	金属・セラミックス・プラスチック素材の性質や加工方法等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

商業科：青森商業高校、黒石高校、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校

- 経済のグローバル化、ICTの急速な進展等の時代の変化や、ビジネスにおけるマネジメント能力の向上等、経済社会の要請に対応できる資質・能力を身に付け、ビジネスを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9
青森商業	商 業	変更なし	三沢商業	商 業	変更なし
	情報処理			情報処理	
黒 石	情報デザイン	変更なし	八戸商業	商 業	変更なし
弘前実業	商 業	変更なし		情報処理	
	情報処理				

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
商 業	簿記、マーケティング、商品開発と流通、ビジネス・マネジメント等について学習。
情報処理	プログラミング、ネットワーク活用・管理等について学習。
情報デザイン	マーケティング、グラフィックデザイン等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

水産科：八戸水産高校

- 水産業の6次産業化や技術革新、水産物の資源管理等、水産業を取り巻く状況変化に対応できる資質・能力を身に付け、水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。
- 専攻科においては、海技士※（航海・機関）等の人財を育成するための専門性の高い実践的な教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9
八戸水産	海洋生産	変更なし	八戸水産 (専攻科)	漁 業	変更なし
	水産食品			機 関	
	水産工学				

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
海洋生産	航海、船舶の運用、漁業、海洋生物、水産増養殖等について学習。
水産食品	水産食品の加工・製造・安全管理、水産物の流通等について学習。
水産工学	船舶機関の運転・管理、機械設計工作、電気機器等について学習。

※海技士：「船舶職員及び小型船舶操縦者法」に定める大型船舶を運航するための資格を有する者です。

家庭科：弘前実業高校、百石高校

- 少子高齢化、食育の推進、ライフスタイルの多様化、消費生活の複雑化等、生活文化の変化に対応できる資質・能力を身に付け、生活産業※を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う人財を育成するための特色ある教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9	学校名	R 4	R 5～R 9
弘前実業	家庭科学 服飾デザイン	変更なし	百石	食物調理	変更なし

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
家庭科学	生活文化、栄養、調理、介護、保育等について学習。
服飾デザイン	被服製作、ファッションデザイン、服装の変遷等について学習。
食物調理	栄養、調理、食生活等について学習。

看護科：黒石高校

- 少子高齢化や医療技術の進歩等、医療を取り巻く社会環境の変化に対応できる資質・能力を身に付け、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する人財を育成するため、専攻科と一体となった5年間一貫した専門性の高い実践的な教育活動を推進します。

[設置学科]

学校名	R 4	R 5～R 9
黒石 (専攻科含む。)	看護	変更なし

[学科の概要]

学科名	主な学習内容
看護	人体の構造と機能、疾病、看護技術・倫理等について学習。

※生活産業：衣食住、ヒューマンサービス（保育、福祉）等に関する産業を指します。

(3) 総合学科の充実

各校の教育環境の充実

総合学科：青森中央高校、木造高校、七戸高校、大湊高校（下北地区統合校）

- 「産業社会と人間」の学習を通して、生徒一人一人に自身の個性を発見させるとともに、高校卒業後の進路を含めた自己の在り方・生き方を考察させることにより、将来を見据えた主体的な系列選択を促します。
- 多様な選択科目の充実を図るため、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用するとともに、各系列の連携による教育活動等を進め、生徒の幅広い進路志望に対応します。
- 生徒数の減少や生徒の学習ニーズに対応するため、地域の実情等を踏まえながら、引き続き、系列の在り方について各校と検討し、見直します。

[設置系列]

学校名	R 4
青森中央	人文科学
	自然科学
	生活科学
	情報ビジネス
	美術
木造	人文科学
	自然科学
	流通ビジネス
	情報システム

学校名	R 4
七戸	人文科学
	自然科学
	情報ビジネス
	福祉健康
大湊 (下北地区統合校※ (P23 参照))	人文科学
	自然科学
	健康福祉
	情報ビジネス

※下北地区統合校の系列については、大湊高校の系列を基本としつつ、開設準備委員会※の意見を踏まえながら検討します。

[系列の概要]

系列名	主な学習内容
人文科学	文化的、社会的な視野に立った物事の考え方について学習。
自然科学	科学的、理数的な視野に立った物事の考え方について学習。
情報ビジネス	会計、商品開発、情報処理、マルチメディア等について学習。
流通ビジネス	会計、マーケティング、商品開発等について学習。
情報システム	マルチメディア、ネットワークシステム等について学習。
生活科学	栄養、調理、保育、被服等について学習。
福祉健康	高齢者の介護・健康増進・体力向上等について学習。
健康福祉	社会福祉、保育、被服、栄養等について学習。
美術	絵画、デザイン、陶芸、映像表現、美術史等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

(4) 多様な教育制度の充実

併設型中高一貫教育：三本木高校・三本木高校附属中学校

- 生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし進路志望を実現できるよう、高校と附属中学校の教員が交流し双方の授業改善を図るとともに、先取り学習※に取り組むなど、6年間を見通した計画的・継続的な教育活動の更なる充実を図ります。また、高校と附属中学校の生徒による異年齢交流を通して、社会性や豊かな人間性を育成します。

全日制普通科単位制：青森東高校、弘前南高校、田名部高校、八戸北高校

- 生徒一人一人の興味・関心、適性、進路志望等に応じた幅広い選択科目や学校設定科目を開設するとともに、少人数できめ細かな指導等の指導体制の工夫・改善により個に応じた指導※の充実に取り組めます。また、大学が開設する科目の履修やボランティア活動等、学校外の学修や体験活動等における成果の単位認定を通して、生徒の学習意欲の向上を図ります。

総合選択制：弘前実業高校

- 多様な選択科目や学校設定科目を開設し、生徒が自身の興味・関心等に応じて、所属する学科の科目に加え他学科の科目を学習することを通して、幅広い知識や柔軟な発想を身に付けられるよう取り組めます。また、異なる専門性や価値観を有する各学科の生徒が学び合うことにより、新たな価値を創出するために必要な力を養います。

※先取り学習：併設型中高一貫教育校等において認められている教育課程の編成に係る特例を活用し、高校における指導内容の一部を附属中学校等の段階で学習するものです。

※個に応じた指導：生徒一人一人の特性や学習進度等に応じて、指導方法・教材を柔軟に提供するなどの「指導の個別化」や、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、生徒自身が最適な学習となるよう調整する「学習の個性化」を実現する指導です。

3 定時制課程・通信制課程

定時制課程の充実：北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、田名部高校、八戸中央高校

- 様々な事情を抱える生徒に対応するため、家庭・地域等と連携しながら、生徒一人一人に寄り添った指導や支援を行います。
- 各校の教育環境の充実を図るため、スクールライフサポーター[※]等、専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等に取り組みます。

通信制課程の充実：北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校

- 生徒の多様な学習ニーズ等に対応できるよう、ICTを活用することにより、時間や場所の制約を超えて学習・相談できる体制の構築に取り組みます。
- 高校入学後の進路変更を希望する生徒に対し、後期入学や年度中途からの転入学・編入学の実施を通して、幅広く学びの機会を提供します。

[※]スクールライフサポーター：教員と連携しながら、特別な支援を必要とする生徒に対する授業補助や学校生活支援、社会性向上支援等を行う専門スタッフです。